



# 青山病院 『ふれあいニュース』

2024 . 4

4月号

## 「脳梗塞」

—すばやい、血管内治療、で後遺症が激減！

2024年1月1日に青山脳神経外科病院脳神経外科に赴任しました徳田良です。皆様、どうぞよろしくお願ひいたします。

私の専門は脳の血管の病気、つまり脳卒中です。これまで兵庫医科大学で、カテーテル治療（細い管を使った体にやさしい治療）と開頭術（頭を切って行う手術）の両方ができる「二刀流」の修練を積んできました。その経験を生かし、当院では脳卒中患者さんを迅速に受け入れて、できるだけ良くなっていたらという全力で頑張っています。

皆さん脳卒中という言葉はご存知だと思いますが、具体的にどんな病気のことか分かりますか？脳卒中には、①脳梗塞、②脳出血、③くも膜下出血、の3種類が含まれています。このうち最も多いのが脳梗塞で、全体の7割ぐらいを占めます。この脳梗塞の治療に最近、大きな進歩がありました。以前はtPAという薬による治療が中心でしたが、最近では詰まっている部分の血のかたまりをカテーテル（細い管）を使って体外に取り出す治療（血管内治療）が可能となりました。

一方、脳卒中は再発予防も重要です。特に脳梗塞の場合には、10年間で50%に再発が起きるといふ報告もあります。高血圧や糖尿病などの生活習慣病をきつちりと治療することで、脳卒中だけでなく、心筋梗塞なども予防できることがわかっています。私たちは、この地域のクリニックの先生方と協力して継続的に患者さんをサポートして行こうと思っています。当院に通院されている患者さんとそのご家族はもちろん、この地域の皆さんの役に立てるよう精一杯取り組んでいきます。青山脳神経外科をどうぞよろしくお願ひ致します。

青山脳神経外科病院  
医師 徳田

**もし、発症したら  
minutes can save lives  
迅速な受診が人生救う！**

- 脳卒中から大切な人生を守るために、ACT FAST（迅速な行動）を是非覚えてください。
- FASTは、Face、Arm、Speech、Timeの頭文字

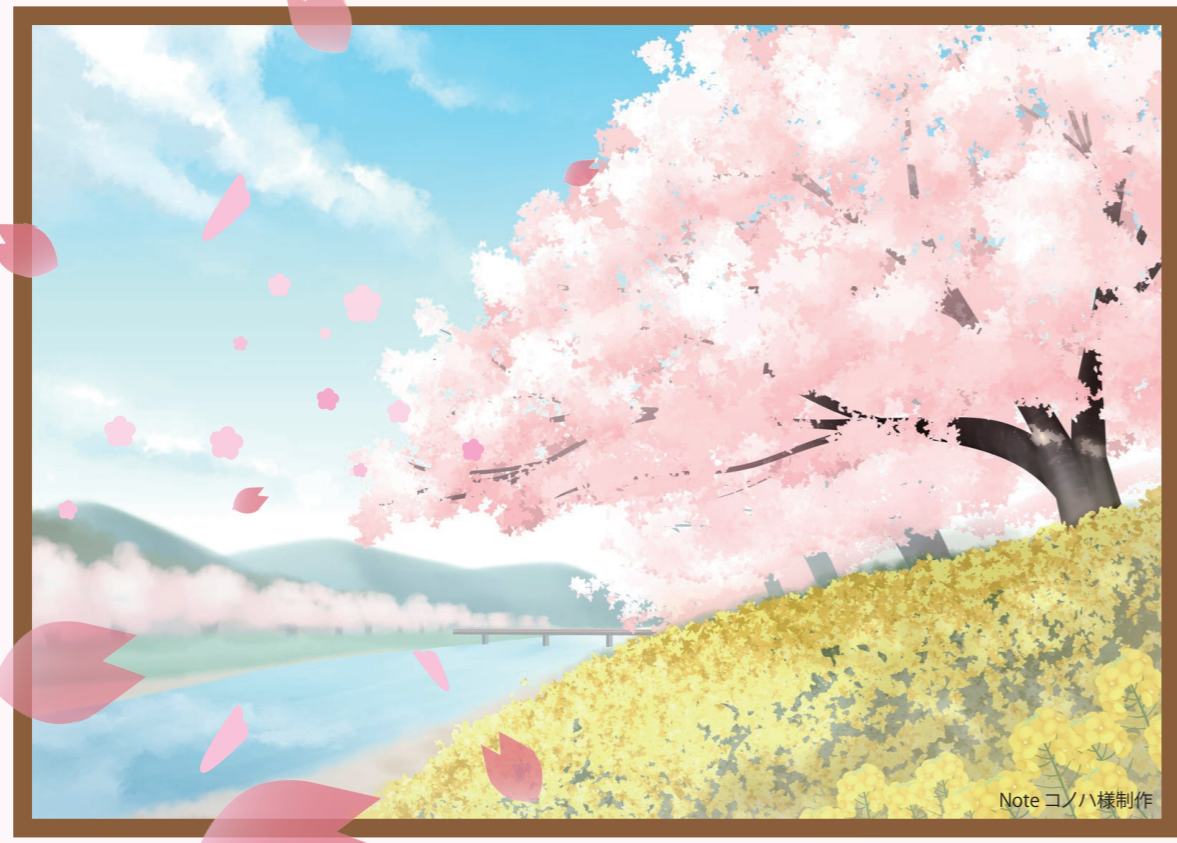
**顔 (Face):** 片側が下がって動かない

**腕 (Arm):** 片側の腕に力が入らない

**言葉 (Speech):** 呂律が回らない・言葉がでない・他人の言うことが理解できない

顔、腕、言葉に1つでもこのような症状が突然生じたら、脳卒中の疑いがあります。**すぐに (Time)**、救急車を呼んでください (Act)。

公益社団法人 日本脳卒中学会HPより



Note コノハ様制作

この血管内治療の効果は素晴らしいもので、治療直後に症状が治ってしまうこともあります。当院でも既にこの治療を始めており、救急車で搬入された時には重度の半身麻痺だった患者さんが、治療後に劇的に回復して自宅に帰られた経験もあります。この治療のポイント、発症してから詰まった血管が開通するまでの時間が短いほど、改善の見込みが高くなるということです。現在、院内のスタッフとより迅速に治療ができるように取り組んでいるところです。また、このような患者さんを搬送してもらえよう、近隣の救急隊と顔が見える関係を構築していきたいと思っています。

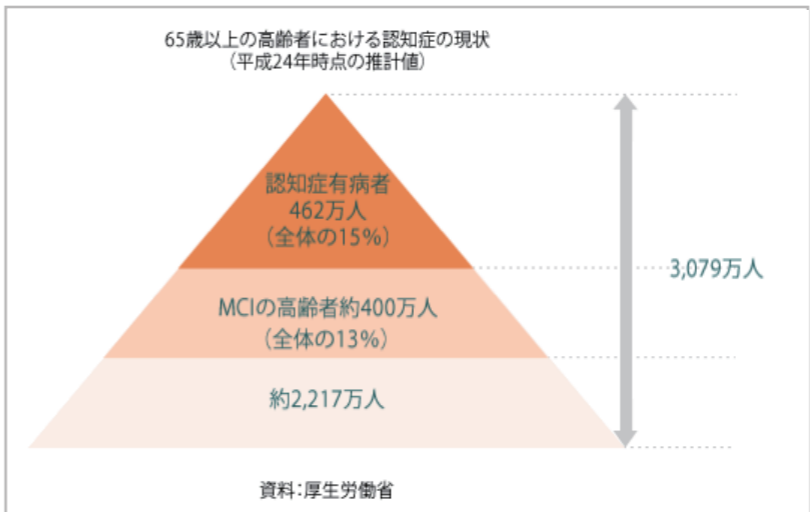
ただ、現在でも脳梗塞の症状が出ているのに自宅で一晩様子を見て、朝になってから来院される患者さんがおられます。時間が経ってしまうと良い治療ができず、後遺症が残る確率が高くなってしまいます。もし、左上図に示すような、①顔、②腕、③言葉、のうち1つでも異常があれば、脳卒中の可能性が7割前後とされています。このような時は、夜間でも迷わず救急車を呼んでください。



## 「認知症」ってどんな病気？

年をとればだれでも、思い出したいことがすぐに思い出せなかったり新しいことを覚えることが難しくなったりしますが「認知症」は、このような「加齢による物忘れ」とは違います。

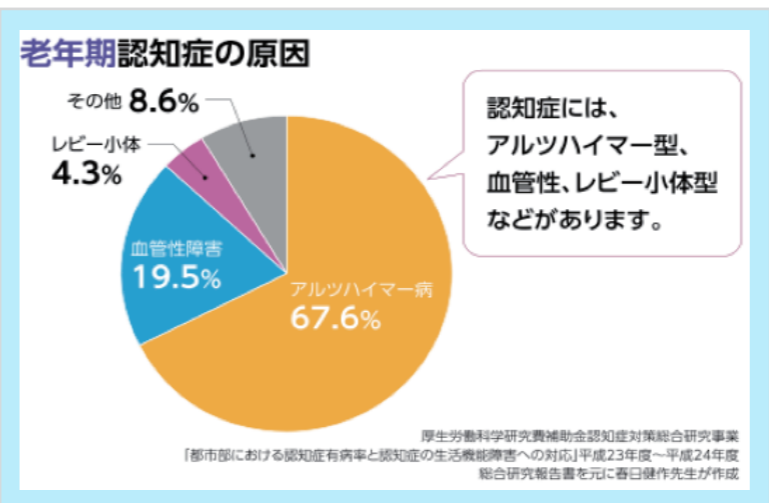
「認知症」とは、様々な脳の病気により、脳の神経細胞の数や働きが徐々に低下し認知機能（記憶力、判断力など）が低下して社会生活に支障をきたした状態を言います。



日本では、高齢化の進行とともに認知症の人は増加しています。六五歳以上の高齢者では、平成二四年(2012年)の調査で四百万人以上の人が認知症であり、認知症の前段階の軽度認知障害(MCI: mild cognitive impairment)の人を加えると八百万人を超えると考えられています。

## アルツハイマー型認知症

認知症をきたす脳の病気は色々ありますが、今回は認知症の原因として最も多いアルツハイマー型認知症(アルツハイマー病)についてご説明します。アルツハイマー病は、長い年月をかけて脳に、アミロイドβ(ベータ)、リン酸化タウというタンパク質がたまり認知症をきたすと考えられています。記憶障害(もの忘れ)から始まることが多いですが、失語(音として聞こえていても話がわかりにくい)、物の名前がわからないなどや、失認(視力は問題ないのに、目で見えた情報を形として把握できない)、失行(手足の動きは問題ないのに、今までできていた動作を行えない)などが目立つこともあります。

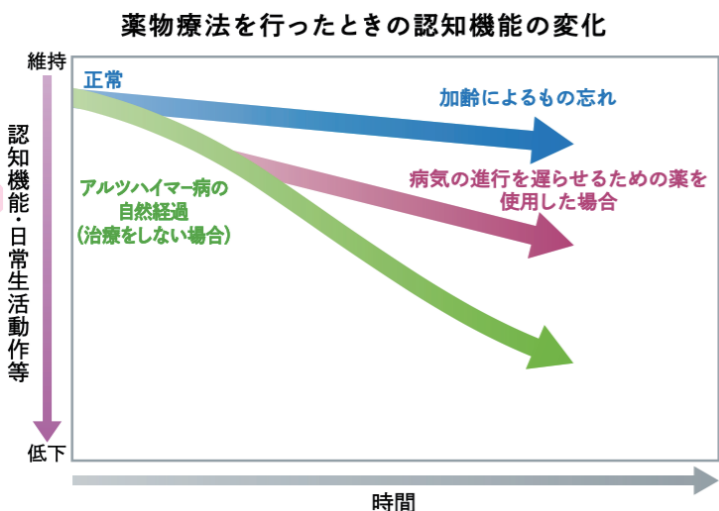


## アルツハイマー型認知症の予防と治療

認知症は生活習慣病(高血圧、糖尿病、脂質異常症など)と関連があると言われており、生活習慣病の予防、治療を行うことが大事です。

パートナー、ご両親など身近な方の認知症が疑われた場合は、専門医を受診し早期に診断を行うことが必要です。なぜなら現在、アルツハイマー型認知症の根治療法はなく、発症早期に治療を行い出来るだけ進行を遅らせる必要があるからです。

また、アルツハイマー型認知症の治療・ケアには患者さん本人が住み慣れた家、地域で自分らしく暮らし続けられるように介護サービスを利用して療養環境を整えることも重要です。



## アルツハイマー型認知症の新薬発売

現在、アルツハイマー型認知症の治療薬は内服薬が3種類(ドネペジル、ガランタミン、メマンチン)あり認知機能障害の進抑制効果があります。

そして、昨年9月全く新しいタイプのアルツハイマー病治療薬であるレケンビ®(レカネマブ)の製造販売が承認されました。レケンビ®は、脳に溜まったアミロイドβを減少させることで症状の進行を抑制することができます。

当院においても、4月から投与可能となりますので脳神経内科にてご相談いただけますようお願いいたします。(脳神経内科外来は予約なしで随時受診いただけます。)

青山脳神経外科病院  
医師 西井

